



学校での新しい生活習慣 その2

校長 赤尾 眞司

今年の夏も、猛暑という言葉が多く聞かれました。例年よりも短い3週間の夏休みでしたが、子供たちはどのように過ごしたのでしょうか。私は1学期の終業式で「学習の継続を」という話をしました。2学期が始まり一週間が過ぎましたが、学習の継続が出来ている子供たちが多く見られうれしく思っています。

長い休みの後には、集団生活に戻ることに對して不安を感じる子供たちもいます。今年は新型コロナウイルス感染症のこともあり、何かと心配なことも多いのではないのでしょうか。何か心配なことがありましたら、早めに担任に相談してください。2学期も安心して学校生活を送れるように、学校も全力で取り組んでまいります。

8月26日の読売新聞に「コロナ新たな日常 客席のないレストラン」という特集記事が掲載されました。感染症対策のために外出自粛が続く中、食に対する意識の変化と、料亭等外食店の取組が掲載されていました。今回の変化に限らず、考えてみるとこれまで日本の食文化はずいぶん変化してきました。3年生が見学に行く「ふるさと文化館」には、ちゃぶ台と土間のある昭和30年代の住宅が展示されています。ちゃぶ台が広がったのは大正時代だそうですが、ちゃぶ台を囲んで食事をするのが、家族のきずなを深めることにもなりました。その後はダイニングテーブルが普及し、食事を食べながら会話を楽しむ場につながりました。昭和40年代以降になると、ファミリーレストランの登場による外食が始まり、コンビニエンスストアの展開で持ち帰って自宅で食べる「中食」の普及につながりました。また、そのころになると一人で食べる機会も増え、子供たちの個食化が社会問題になったこともあります。今回のコロナ対策では、外食が減った反面、家族で食事を楽しむ機会が増えたのかなと感じます。

学校で食といえば給食になります。私が小学生の頃はまだパン食でしたが、現在はご飯給食が中心になっています。給食を共にすることは子供たちにとっても楽しい時間であり、会話も弾むものです。異学年の子供たちとのコミュニケーションを深めるために、本校では誕生給食会や交流給食なども実施してきました。しかし、現在、給食の時間は、前を向いて、話をしないで黙々と食べる時間になっています。しばらくは、感染症対策のためのこのような新しい生活様式に沿って、個人で静かに食べるということが求められますが、これまでのように、友達と楽しく食事ができる時間が早く戻ることを願っています。

◇これからの新しい学校生活について

- 練馬区教育委員会が作成しました「練馬区立学校（園）のこれからの生活について」を配布しました。感染症対策の新しいガイドラインになります。学校の感染症対策もこの指針に沿って実施していきます。ご家庭でも確認をお願いします。今回の改定では、登校の判断として「児童本人に風邪症状がある場合はもちろん、その同居家族に発熱等の風邪症状がある場合にも、学校への登校を見合わせるようにご協力をお願いします」とあります。その場合の欠席は、出席停止になります。皆様のご協力をお願いします。
- 教育活動では、間を開ける、マスク等を着用するなど感染予防に配慮しながら、話し合い・教え合い活動の実施や、体育的活動、音楽的活動の内容を広げていきます。
- 間を開ける、マスクを着用する、手洗いをする、毎日の検温に確実に取り組ませます。
- 欠席する場合は、これまでと同様に電話連絡をお願いします。

9月12日（土）に、練馬区一斉防災訓練（児童引き渡し訓練）を予定しています。今年度は1年生の保護者のみの実施となります。詳細は配布文書で確認してください。なお、当日は学校公開を行いませんので、校舎内には入れません。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

授業公開は、10月に計画している運動発表会で行う予定です。10月10日（土）1・2・3年生、17日（土）4・5・6年生で実施予定です。